

令和4年度 星槎大学入学式 学長式辞

星槎大学ならびに大学院に入学された皆様、本日はおめでとうございます。

今年度の入学式は、2年前から始まった新型コロナウイルスがオミクロンやステルスオミクロン（BA. 2）という株に変異した形で感染を広めて終息しないため、感染拡大のリスクを極力軽減すべく、一昨年と昨年同様、ZOOMを活用し挙行することにいたしました。

皆様ご存知のように、本学は共生科学部から成る大学と、教育学研究科と教育実践研究科から成る大学院で構成されています。今年度、学部には北は北海道から南は鹿児島まで全国各地から1477人の方が入学されました。その平均年齢は33.7歳です。また本学大学院は、今年度、教育学研究科博士課程には6名、修士課程には15名、教育実践研究科専門職学位課程には16名が入学されました。その方々の平均年齢は46歳です。

皆様が本学に入学された動機は、様々な子供や生徒たちとのかかわり方を学びたい、教員や福祉関係の免許を取得したい、いろいろな現場で自らが経験した多くの課題を解決する道や術を探究したい、あるいは教育問題、看護や福祉問題、環境問題、国際問題などを掘り下げて深く考えたいなど、多種多様でしょう。そして皆様は、高校を卒業したばかりの方、教育、医療、福祉、行政、NPOやNGOなどの現場で働きながら、学びを深めたい方、退職されてから生きる意味と学びを深めたい方など、多様なバックグラウンドをお持ちでしょう。

本学は、今から18年前の2004年に「誰でも、どこでも、いつでも」学べる通信制の大学として開学いたしました。その生みの親であり、先日亡くなられたばかりの宮澤保夫氏は、今から50年前にたった二人の生徒が参加する小さな学習塾を始めたのをきっかけに、不登校や自閉症、学習障害などがある子供たちに学びの場を提供する取り組みを始められました。それはまさに日本の教育に欠けていた次元を切り拓いた日本の教育の歴史に名を刻む画期的なパイオニア的な試みであり、そうした歴史の流れの中で本学は誕生したのです。ですから本学は、全国各地に広がる幼稚園から中学、高校、大学・大学院まで約4万人が学ぶ星槎グループの中の一つの重要な位置を占める高等教育機関であり、社会的に大きな役割を担う大学だと言ってよいでしょう。

そうした文脈の中で生まれた本学の建学の精神では、「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り拓き、それを成し遂げる」と謳っています。そして学部のカリキュラムポリシーには、すべての学生が修める科目として、人と人、人と自然、国と国の三つの領域に関わる「共生科学概説」2科目を置き、3・4年次編入の学生でも、星槎共生スピリットを身につけることを掲げておりますし、大学院でも、社会に必要なことを創造する精神や、共生スピリットはカリキュラムの中に根付いています。

しかし現在の社会を見渡すと、残念ながら共生とは真逆の分断現象が至る所に見出されます。それは、差別、いじめや虐待、貧困、孤独死、環境破壊、テロリズム、そして戦争とそれに伴うスポーツ選手の間での分断などですが、そうした諸問題の現状を冷静に分析し、その克服や除去が一体どのようにしたら可能かを、共に学び考えることこそが、共生科学の大きな課題です。ですから、共生科学は理念や目標を排除した価値中立的な科学ではありませんし、科学的考察を抜きにしたイデオロギーやユートピアでもありません。それは、冷静な現状分析を基に、共生社会の道を探り、共生社会を妨げている現実の変革や改善をめざす学問だと言ってよいでしょう。

また学部だけでなく、教育学研究科と教育実践研究科から成る大学院でも、教育に関して課題探究、問題解決を行い、現場において「優れた実践力と指導力」を発揮していく形で、「共生社会の創出に貢献していく」ことを目指しており、これも共生科学の重要な側面だと、私は考えております。

ここで「Lifelong learning 生涯学習」を最初に提案し、私が一時期、地域間哲学対話という形でかかわったことのあるユネスコ（国連教育文化科学機関）が第二次世界大戦終了後の1946年に発足した当時にその根本理念として掲げ、現在でも全く色あせていない憲章の前文を引用してみましよう。そこでは、こう謳われております。

「戦争は、人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦（とりで）を築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにしばしば戦争の原因になった。ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人種の不平等という協議を広めることによって可能にされた戦争であった。文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相

互の援助及び相互の関心を持って、果たさなければならない神聖な義務である」

この憲章前文の内容は、人間の尊厳を原点にしたあらゆる形の差別の撤廃とそのための教育の促進であり、その課題は未だ達成されておられません。それどころか、そうした理念を根本から裏切る最近のウクライナ情勢やミャンマー国内の分断をはじめ、世界で起こっている深い悲しみに満ちた出来事は、私たちの前に、改めて「人と人」の共生、「人と国際社会ないし国と国の共生」がいかに難しいかを私たちに突き付けております。戦争や紛争は、単に国際関係だけでなく、教育や福祉や環境、そしてスポーツにも大きな影響を及ぼします。ですから皆様には、本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げられている「共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門知識を生かし、狭い専門領域を超えて統合する意志を持つ」ように、心がけて頂きたいと思っております。

皆様、そのような学習意欲を持ちながら、多様なカリキュラムを履修する中で、皆様が抱く疑問や情熱を、授業を通して先生方に伝えたり、投げかけたりして下さい。皆様の学びへの情熱がある限り、先生方は上から目線ではなく、皆様に寄り添う形で、必ず応えてくれるでしょう。さらに、学生同士の学びあいの中で、共生の発想を深めていってください。そして、本学で得たものを、皆様の人生の舞台で、様々な形で活かしてほしいと願っております。星槎大学の星槎とは、いろいろなものを取り入れながら、天空をめざして進む星の槎（いかだ）を意味します。どうか皆様、共生社会の実現をめざして進む星の槎のような大学で、充実した大学生活、大学院生活をお送りください。

本日はまことにおめでとうございます。

令和四年四月九日
星槎大学 学長
山脇直司